

委員会活動

建設経済文教常任委員会研修報告

研修日：令和8年2月2日（月）～2月3日（火）

研修先：鹿児島県大崎町

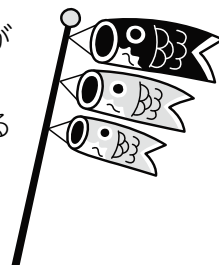
（人口11,800人、面積100.67km²）

視察目的

本町における農地・耕作放棄地の状況は、農地全体756haに対して、54.9haであり、農地全体に占める割合の約7.3%となっている。

要因としては、農業従事者の高齢化や減少、農業用機械が入らない、農業用水が確保できないなどの耕作条件や作業環境が厳しい状況があげられる。

そこで、耕作放棄地を活用し、新しい特産物や事業の仕組みづくりを行っている鹿児島県大崎町において視察研修を実施した。



視察内容

大崎町は喫緊の課題である「耕作放棄地の解消」に向け、耕作放棄地の抑制、農地の保全、再生を目指し、比較的手のかからない作物で新たな収入源となり、農地を守り続ける仕組み作りを行っている。

大崎町に適した作物として実証栽培を行っている「山椒」と「マコモダケ」の現地を視察した。

山椒については、大崎町の特産物のうなぎやちりめんとの相性が良く、ふるさと納税等で付加価値を狙い、3～5年後の本格的な収穫を目指している。

また、マコモダケについては、葉を活用したお茶やしめ縄、お香を開発中であり、いずれも農家と福祉事業所等による農福連携や農業公社との連携体制を構築中である。



どうする耕作放棄地！

まとめ

本町においても耕作放棄地解消の取組みは喫緊の課題である。風土や気候にあった作物で作業負担が少なく、新たな収入源となるような仕組みづくり等を考えて行く必要がある。

委員会活動

総務保健福祉常任委員会研修報告

研修日：令和8年1月27日（火）～28日（水）
研修先：長崎県佐々町
（人口13,830人、面積32.27km²）

視察目的

本町においても子育て支援や高齢者支援は実施されているが、昨年8月に「にじいろはうす」がリニューアルオープンし、多世代の交流や支援の拠点としての活用が期待されている。



今後は、子育て支援や高齢者支援にとどまらず、健康づくり支援やひきこもり支援など、多岐にわたる分野で施設機能の充実が求められる。

このため、先進的な取組みを行っている佐々町において視察研修を実施した。

視察内容

佐々町にある「佐々町総合福祉センター」を訪問し、実施されている支援内容および町全体の取組みについて説明を受けた。同町では多世代包括支援センターを設置し、子どもから高齢者、障がいのある方まで、対象を限定しない支援体制を構築している。

さらに、ひきこもり支援やボランティア活動、生活困窮者支援など幅広い分野に対応し、「多世代包括ケア」を推進している。

また、従来の縦割り型の組織体制から、分野横断的な支援体制へと移行している点も特徴的であった。

まとめ

地域ネットワークを活かした情報交換や、地域住民と一体となって活動する職員体制は非常に優れていると感じた。高齢者ボランティアの体操など多様な住民主体活動が展開され、障がい者支援も地域で支える仕組みが整っていた。

日常的な交流により、課題の早期把握が可能となることから、行政・社会福祉協議会・包括支援センターの連携強化が本町でも重要であると受け止めた。

